

2-9

利用者の個別性に合わせたケア～環境の改善～

個別性

環境整備

しせいとくへつようごろうじん
至誠特別養護老人ホーム

職種・発表者 ケア-カ・戸井田 知代

共同研究者（いる場合）

立川市錦町6-28-15

共同研究者（いる場合）

TEL : 042-527-0061

E-mail : nishiki-tokuyo@shisei.or.jp

FAX : 042-527-0032

URL : <http://www.shisei.or.jp/>

今回の発表の施設
またはサービスの
概要

至誠ホームは高齢者総合福祉施設として、昭和26年に養護老人ホームを開設以来半世紀以上にわたり立川の地において高齢者福祉を担い、その時代や地域のニーズに応じた事業を先駆的に展開してきました。至誠特別養護老人ホームは昭和52年に開設し、現在150名の高齢者が4フロアで生活されております。

〈取り組んだ課題〉

フロアの環境の改善を行うことで、利用者の持つ個性の強い多様なニーズ・要望を満たし今以上に質の高いケアを提供できる可能性がある。

⇒○利用者のニーズに合わせた環境作り

○職員の動線も意識した環境作り

に着目し、利用者の個別性に合わせたケアを提供できる環境を整えQOLの向上を目指す。

〈具体的な取り組み〉

①トイレ個室内及び洗面所周辺の環境整備

トイレ内に使用済み物品を入れる容器の設置。

自立の利用者へ向けたペーパー置き場の設置。

家庭的な雰囲気作り（壁面の装飾）。

②展示物・掲示物のブース設置

フロア活動における季節感のある作品の製作・掲示。

利用者に分かりやすい居室・トイレ表示の作成。

③デイルーム入り口付近の整備

ダルマポット・洗面タオル入れの設置。

ゴミ箱の設置場所の検討。

④廊下の環境整備

フロア所有の椅子・車椅子の整理、保管場所の確保。

⑤DVD・ビデオの上映

定期的な映画・音楽番組などの上映

⑥ステーション周辺の環境整備

不要なものを片付け、必要な物を整理整頓する。

〈活動の成果と評価〉

利用者へのケアの最適化・職員の業務の効率化

①職員の汚物室・トイレ間の動線が省かれる。衛生的。

ペーパーがなくなった際に職員へ声をかける手間・補充を待つ負担感が減る。

家庭的な雰囲気から生活の潤いが感じられる。

②作品の発表の場を設けることで利用者の達成感、制作意欲の向上、QOLの向上につながる。

居室・トイレの位置が明確になり生活しやすくなる。

③職員を待たずに自らお茶や温かいタオルを取出せる。

職員の配膳室・デイルーム間の動線が省かれる。

デイルーム付近の利用者の安全な通行スペースの確保。

④利用者の往来がスムーズに。事故リスクの軽減に。

突発的な車椅子使用も、円滑に行える。

⑤平坦になりがちな生活の中でひとときの楽しみに。

⑥業務内での「探す」時間が無くなり、時間の短縮に。

〈今後の課題〉

今後も環境を改善することで、利用者のQOLの向上を目指し、笑顔で満たされた生活へとつなげていきたい。